

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：17101

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K22179

研究課題名(和文) 保育場面における社会的遊びの選定と指導のフォーマットの開発

研究課題名(英文) Development of format for selection and prompting of social play in childcare settings

研究代表者

藤原 あや (Fujiwara, Aya)

福岡教育大学・障害学生支援センター・講師

研究者番号：10882417

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、社会的遊びへの参加が困難である幼児の支援に役立つツールとして、より実用性の高い社会的遊びの選定や指導が可能となるフォーマットの完成を目指した。

研究1では就学前教育・保育場面において社会的遊びを含む社会的相互作用の評価を実施した論文をレビューし、社会的相互作用の評価において言葉の発達段階にある未就学児を対象とする場合には、行動や表情、活動形態など、発話や会話以外の指標も考慮することが重要であることが示唆された。研究2では児童発達支援センターの指導員を対象として社会的遊びの選定と指導のためのフォーマットを使用した研修を実施し、フォーマットの改良を行い実用性を高めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、子どもの実態や遊び場面の環境に応じた社会的遊びを選定し指導するためのフォーマットを使用した遊びの研修を実施し、実践場面で使用可能なフォーマットの改良を行った。改良された社会的遊びの選定と指導のためのフォーマットは、社会的遊びへの参加が困難である幼児やASD児の社会的遊びの体験を保障し、就学前教育や保育、療育場面における遊び支援への一助となることが期待される。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to complete a format that would allow for more practical social play selection and instruction as a useful tool for assisting young children who have difficulty participating in social play.

Study 1 reviewed articles that conducted assessments of social interaction, including social play, in preschool education and care settings. The results suggested that it is important to consider indicators other than speech and conversation, such as behavior, facial expressions, and activity patterns, when targeting preschool children in the language development stage in the evaluation of social interaction. In Study 2, training using a format for selecting and teaching social play was conducted for instructors at a child development support center, and the format was improved to make it more practical.

研究分野：特別支援保育

キーワード：自閉スペクトラム症 社会的遊び 社会的相互作用

1. 研究開始当初の背景

社会的遊びは、他者を遊び相手とした相互的な遊びであり、3歳から4歳にかけて子どもを遊び相手とした社会的遊びが見られるようになる。しかし、幼児期の自閉スペクトラム症(autism spectrum disorder; 以下、ASD)児は、社会性およびコミュニケーションにおける困難さや、創造性の弱さなどにより、社会的遊びが少なく(Holmes & Willoughby, 2005)、保育場面などの自然な環境の中で直接的かつ組織的に遊びを教える必要があると言われている(Jung & Sainato, 2013)。しかし、伊藤(2014)は、日本の保育場面において障害のある子どもの場合、様々な課題を抱えており、その課題への対応が中心となりやすく、遊びへの支援が軽視されやすいことを指摘している。そのため、日本の保育現場におけるASD児を対象とした遊びに関する実証的研究は極めて少なく、社会的遊びに関する指導方法や効果の測定方法は確立されていない。そこで社会的遊びへの参加が困難である幼児の支援に役立つツールの開発が必要であると考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、より実用性の高い社会的遊びの選択や指導が可能となるフォーマットの完成を目指すことであった。

研究1では、これまでに社会的遊びを含む社会的相互作用の測定に用いられてきた尺度や測定方法について文献的検討を行い、有効な測定方法について検討することを目的とした。

研究2では、社会的遊びの選定と指導のためのフォーマットを用いた社会的遊びの指導を実施し、フォーマットをより実用性の高いものに改良することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 研究1の方法

就学前教育・保育場面における社会的相互作用に関する論文を Education Resources Information Center (ERIC)、PsycINFO、JSTOR を用いて2016年から2020年の間に英語で発表された査読有りの論文のアブストラクトを対象に、「classroom OR playground OR preschool OR nursery OR kindergarten」と「social interaction OR reciprocal interaction OR mutual interaction」を組み合わせたものをキーワードにして検索した。分析対象論文26件について、対象児・者、場面、評価の期間・回数、社会的相互作用の評価方法(評価のタイプ・使用した道具/質問紙・記録方法)、評価の対象となる社会的相互作用、評価者の6項目について整理した。

(2) 研究2の方法

児童発達支援センターの指導員6名を対象に社会的遊びの選定と指導のフォーマットを使用した遊びの研修をオンラインにて週に1回程度実施し、指導員は研修を通して各対象児に遊びの指導を実施した。

4. 研究成果

(1) 社会的相互作用の評価において、表1に示したように一つの要素に限らず複数の要素を観察し、各要素の変化や要素間の関係を分析することで、より丁寧に社会的相互作用を捉えることができると考えられた。また、就学前の乳幼児や障害のある乳幼児においては、言語発達に差があるため、発言や会話以外の要素も社会的相互作用の指標として重要となると言える。今後これらの要素を整理することで、社会的相互作用がより具体化され、就学前教育・保育場面における社会的相互作用の評価に役立つと考えられる。

(2) 社会的相互作用の記録には、インターバル記録法やタイムサンプル記録法、フィールドノート、既存の記録フォームなどが使用されていた。記録方法については、観察対象を記録するのに適した方法が選択されていることが伺えたが、同じ観察対象であっても、その記録方法は研究によって様々であり、研究間で観察対象と記録方法における共通点はあまり見られなかった。しかし、社会的相互作用の観察者は、研究者や訓練を受けた学生等であったことから、記録方法については、プレスクールやキンダーガーデンの

表1 観察の対象となった社会的相互作用の例

- ・社会的相互作用の開始
- ・社会的相互作用への応答と受け入れ
- ・他者への発言・他者への行動
- ・サインやジェスチャー
- ・会話
- ・子ども同士の議論
- ・音楽的相互作用
- ・二人以上の活動への従事
- ・社会的遊び
- ・グループの構成・感情・表情
- ・子どもの位置や子ども同士の距離など

教師やスタッフではなく、研究者や訓練を受けた学生等が実施可能な方法が取られていたと推測される。今後、社会的相互作用の評価における観察対象に応じた記録方法やその正確さや簡便さなどを検討し、整理することで、観察者やそれぞれの就学前教育・保育場面に適した評価方法

の選択が可能になると考えられる。

(3) 児童発達支援センターの指導員を対象とした遊びの研修では、社会的遊びの選定と指導のためのフォーマットを使用した指導により、一部の指導員から対象児が指導員との社会的遊びに参加したことが報告され、フォーマットの有効性が示唆された。

(4) 研修を通して指導員がフォーマットを使用して社会的遊びを実施する過程で、フォーマットの改善点が明らかとなった。具体的には、子どもの遊びの実態を整理するフォームにおいて、子どもが「これまでに参加できた遊び」「これまでに参加が難しかった遊び」を記入する際に、指導員が子どもの参加時の状況は記入できるが、遊びに参加できたかどうかの判断に迷う様子が見られた。そのため、図1の左に示した通り「これまでの他者との遊びへの参加状況」という表現に変更し、子どものこれまでの遊びへの参加状況を記入することで、研修時に参加者と研修実施者がどのような遊びにどの程度参加できたかを共有することができ、子どもの遊びの実態が把握しやすくなると考えられる。

(5) 研修においてフォーマットを使用して社会的遊びの選定を行うにあたり、選定した遊びを実施した結果、子どもにとってその遊びが指導の対象として適切であるかを判断できるよう、選定した遊びの条件をチェックするだけでなく、子どもが参加できたか、指導員は実施可能であったかを確認する項目と、その結果を踏まえて指導を継続するか遊びを変更すべきかを判断できるフローチャートを追加した(図1右)。それにより、参加者自身が選定した遊びの適切さや指導の進め方について判断することが可能となり、実用性の高いフォーマットとなったと考えられる。

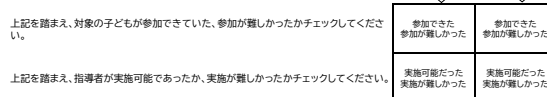
シート1. 子どもの遊びを知ろう

項目		記入欄	
① 支援を行う遊び場面	-遊び場面		
	-場所		
	-大型遊具		
	-遊具		
② 対象となる子ども	診断、発達検査や知能検査の結果		
	年齢		
	よくする遊び		
	-遊び方		
	-遊び相手		
	-遊んでいる時のかわり		
これまでの他者との遊びへの参加状況			
③ 同じ場で遊ぶ子ども	年齢		
	人数		
	見られる遊び		
	-遊び方		
	-遊び相手		
-遊んでいる時のかわり			
④ 支援の程度	対象の子どもへの可能な支援の程度	全体に対する見守りや声掛け・適宜個別・常に個別	
⑤ 支援計画	現在設定している遊び		
	今後の遊びの予定		

シート3. 遊びを決めて実施しよう

1. シート2の4の結果を参考に、実施した遊びが以下の条件に当てはまっていたかチェックしてください。

		実施した遊び	
※○:当てはまる, △:まあまあ当てはまる, ×:当てはまらない			
共通条件	1	かわりが生じやすい, 人を介して遊べた	
	2	2人以上で遊ぶことができた	
	3	対象の子ども遊びの発達段階に合っていた	
	4	対象の子どもが参加できる遊びの特徴があった	
	5	対象の子どもが運行できる単位行動が多く含まれていた	
	6	同じ遊び場で遊ぶ他の子どもたちと並行して実施できた	
	7	教室で実施できた	
	8	自由遊びの時間内で実施できた	
	9	対象の子どもが好む遊びであった	
	10	指導者の対象の子ども遊びに関するコースに合っていた	
選択条件	11	2人以上でできた	



2. 1の結果に基づいて、今後の遊びの実施について選択してください。

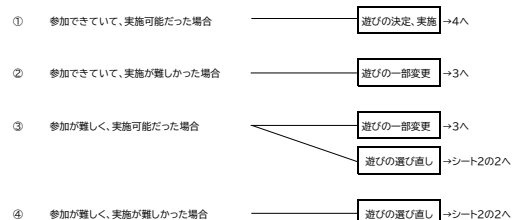


図1 改良したフォーマットの一部

<引用文献>

- Holmes, E. & Willoughby, T. (2005) Play behaviour of children with autism spectrum disorders, *Journal of Intellectual & Developmental Disability*, 30(3), 156-164.
- 伊藤英夫 (2014) 障害児の遊びと発達介入. 小山正高・田中みどり・福田きよみ編, *遊びの保育発達学*. 川島書店, 129-145.
- Jung, S., & Sainato, D. M. (2013) Teaching play skills to young children with autism. *Journal of Intellectual & Developmental Disability*, 38(1), 74-90.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Aya Fujiwara, Shigeki Sonoyama	4. 巻 -
2. 論文標題 Children's Social Interaction in Pre-school Education and Childcare Settings: A Systematic Review	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Youth Care Forum	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s10566-022-09721-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤原あや・裴 虹
2. 発表標題 児童発達支援センターにおける社会的遊びの研修の試み
3. 学会等名 障害科学学会2021年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 藤原あや
2. 発表標題 海外の就学前教育・保育場面における幼児の社会的相互作用に関する文献的検討
3. 学会等名 2020年度障害科学学会大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------